

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより  
逢ひてエ

# 雑報 緑文

No. 694

2025年1月 増刊

も・く・じ

- |                  |    |
|------------------|----|
| 沖縄県の人口動態         | 2  |
| 「コールガール」ほか       | 6  |
| お便りから            | 10 |
| 飯田線の旅            | 15 |
| ホテルで閉め出された!      | 17 |
| 24年最後の山仕事(12月大平) | 18 |
| 躓きの石にしないでください    | 20 |
| 印刷機がグズった         | 21 |
| トランプが走める偉大なアメリカ  | 22 |
| 精攻 志願ではなく命令だった   | 23 |
| 安定発電と脱炭素原発以外ない   | 24 |
| 核戦争を回避した中佐の判断    | 25 |
| け・い・じ・ば・ん        | 26 |

ページ

羽束  
咲

山頭火



泉ゆきを『いつも山頭火』

(日本習字普及協会)

メール配信をご希望の方は、

<suzukikosei.san@gmail.com>へ。

三宅伊都子さんが

応対してくださいます。

月 日現在の  
会員数 183名

題 字 故佐村 隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)  
カット 泉ゆきさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

\* この号の切手は、冬のグリーティング。

## 24年最後の山仕事(12月大平)

12月19日(火)。寒波の到来で、ほんだ駅に向かう途中、雨ふぶとは違うものが額に当たる。しかし、路面をぬらす程ではない。

天海線敷地駅で、正士・久米さんに迎えられる。若林さんは欠。

まずは、深澤さんの畠内農園へ。おじろいたのは、ミカンの姿が全く見当らない。こなことは初めて。天候やカメムシにやられてダメという事だった。いつもは轟れの餅つきのため、餅糰とすき間にミカンを詰めて送ってもらうのが、餅糰(近所の農家)もカメムシにやられてしまつたそうだ。世上豊かがれている野菜の高値も、いろんなことがあったのだろう。

それでも深澤さんは、猫の手のためにハネたミカンをコンテナノ杯くださった。およそ20kg。ありがたいことだ。

置物に行く4名と別れ、正士さんとぼくはおうちに直行。ここでも変化が起きていた。お母さんが居ないのだ。肺炎といじ不全で磐田病院へ入院されたとのこと。これはさらなる変化に通じるが、それはのちほど。

日の短い時期。家の近く、佐野光延さんちの廻りの草刈りにかかる。面積は少々いが、4ヵ所に分かれている。まず、道路脇の草刈り。佐野さんちから道路に出ると、左側に高さ1m〜2mの崖があり、モレタレを吹きつけであるが、いくつものすき間から草がのびている。山崎さんが脚立をかばして刈りとる。原因さんは崖の外れ、新田橋に近いところの斜面の草刈り。竹中さんとぼくは、側溝沿いの草刈り。一帯はオットビの群落。  
オットビとは、衣服や獣の毛にひついて種子を拡散する植物の総称。これがくっつくと取るのに苦労する。とりわけ山崎さんはひつつきやすい衣服だったため、オナヒ夜になって久米さんに手伝つてもらい、ノミとり眼ざとり続けていた。崖上茶園  
沿いのスキは、竹中さんが刈りとる。やりかげで日暮れに。

例によくて東江・久米さんが用意してくれた夕食は。

(夕) 刺身(ボラ、アジ)。ボラは、山崎さんが遠鉄ストアで目をつけたもの。ヤツジラミ量が多く、よい買物だった)、豚汁、カブの酢の物、きんぴらゴボウ、白菜とレンコンのシーチキン炒め、白菜漬け、ピリ辛たらし漬け。

内田美智子さんから、福砂屋のカステラを2枚いただきました。

この夜、答史さんも同席、会食後懇談。

冒頭、正士さんから状況報告。元気ではあるが、体温マーカーの数値が上昇気味。食欲も減り気味で体の力が少しづつ落ちている。年明け1月12日に診察があり、その後子によって介護施設に入ることになり。4ヵ所の施設に目をつけており、それぞれ向いて様子をみているとのこと。かねて予期していたことだが、お母さんの入院が踏み切る気

正士さん

谷池谷さん

佐野さん

水新田橋

竹中さん

久米さん

山崎さん

内田美智子さん

答史さん

東江さん

久米さん

正士さん

竹中さん

持ちにさせたのか。

啓史さんは、以前よりもやわらかさが感じられた。話し合いを始めた頃は「父と同じこと(猫の手の受け入れ)をするつもりはない」と頑張ったが、この夜はあるついで受け入れてもよいといふ気持ちになっていた。具体的には、留守宅の使用を許してくれといふのである。これはありがたいこと。トイレを使わせてもらひだけでもありがたい。

啓史さんのえ柿ちの変化を受けて、今後の猫の手の運営をどうするか。人々で話し合った結果は次のようなものだ。

- 活動の拠点は、正士さんから、隣りの森町漬場の久米さん宅にお願いする。
- 作業は、これまで続けてきたご近所の関係が中心となり、漬場での作業も手伝わせられる。
- 啓史さんは、留守宅の環境は守るといふ意向。しかし、水田は季節をすれば、茶園は一人では無理。啓史さんへ要請があれば、家のまわりの草刈りなど手伝うことも。
- 作業の実施に当たっては、正士さんにご近所の意志を確認もらった上、久米さんが各戸との連絡調整に当たる。
- 正士さんの山林、水田、茶園の作業がなくなれば、毎月の作業は見直し回数を減らす。
- 作業の際の会費(5000円)では赤字しかかっていたが、正士さんの家業を手伝っているという実を加味して決められた。今後、改定する。

12月20日(金)、うす晴。久米さんも参加して佐野さんちの草刈りの続き。終って井戸谷(栗園)の草刈り。以前何かご説んだのだが、小川の呼び方は日本の東西で違うんだどうぞすね。東日本は「沢」が多く、西日本は「谷」が多いという。当地は「井戸谷」と「ガニヶ沢」(正士さんちの近く、溜池の脇。いつも水がなく、正士さんに言われるまで沢とは思えなかった)が混在する。

(夕)けんちんうどん、おにぎり(作りたてたけ)、カステラ。

午後は、正士さんちの周囲、庭と敷地内に下りていくスロープの草刈り。終って「あらたま湯」へ。

夜は、青山さん、裕田さんが参加。青山さんにみると、雨が降らないので(豪雨)シタケの収穫は無とのこと。どちらも大変だ。

(夕) 大根と豚バラ煮、ブリの寄せ鍋、紀文の魚の津揚げとレンコン天、ポテトサラダ、レンコンのきんぴら、白菜漬。

12月21日(土)くもり後小雨。メリリ草エンドリモード、冬至とあってカボチャカレーを頂き、正士、久米、ゆ中さんと見送られ帰宅。

一年間も疲れさま。事故もなくよかったです。